

# 大学附属病院本院についての論点の例

## 全体に係る観点

- 大学附属病院本院としての特定機能病院が果たすべき役割等をどのように考えるか。
- 特定機能病院として、医療提供、研修（教育）、医療技術の開発・評価（研究）、医療安全のそれぞれについて高度なものを提供することが求められているが、軸となるのは、高度な医療を提供する観点ではないか。研究、教育、医療安全（承認要件にはなっていないが、）大学附属病院本院が行っている医師派遣機能も、目的は地域で一体となって高度な医療を提供するためと考えることができるのではないか。
- 全ての大学附属病院本院としての特定機能病院が、地域において高度な医療を提供するため、という目的を第一の目的とするか、それ以外の目的を第一にする類型がありえるか。
- 医療提供、研修（教育）、医療技術の開発・評価（研究）のうち、特に重要なもの、重点的に議論すべきものはあるか。現在、特定機能病院の承認要件とはなっていないが、医師派遣機能について、どのように考えるか。
- 現状実施されていること、今後の状況を踏まえて実施すべきこと、それぞれをどう考えるか。
- 大学附属病院本院が自ら行っていること、直接的/間接的に周囲の病院に対して行っていること、それぞれをどのように考えるか。
- 実績を把握可能で分析に資するものであって、承認要件に設定可能な指標としてどのようなものが考えられるか。
- 1つの都道府県に1つのみの大学附属病院本院がある場合と、それ以外で、どのように状況や論点が異なるか。
- 医師多数県、医師少数県、それぞれにおける役割をどのように考えるか。（医師派遣機能以外の面でも、医師の確保の難易度の違い等の影響をどのように考えるか。）
- 果たしている/果たすべき役割と対応するコスト・費用・手間について、それぞれを明確に区別しつつ、どのように考えるか。また、経営上の課題、財政上の課題等について、所与の条件、改善可能性等の様々な観点を他の病院類型とも比較しつつ、どのような点が論点となりえるか。

### (医療の提供)

- 医療提供の内容だけをみると、一般病院との差が縮まる中、大学附属病院の実績のばらつき等を踏まえ、大学附属病院における医療提供についてどのように考えるか。

### (医療技術の開発・評価(研究))

- 臨床研究については、様々な類型(世界初の医薬品・医療機器の開発等、他国で既承認のものを日本に導入するもの等、実施している診療行為の結果等をまとめるもの等)があるが、大学附属病院において、医療技術の開発・評価を行い、推進していくべきものはどのようなものか。
- 研究実績のばらつき等がみられる中、地域で高度な医療を提供することに資する研究には、どのようなものが考えられるか。

### (研修(教育))

- 卒前教育について、卒業後の勤務地のばらつき等を踏まえ、教育の質の違いや地域に対する貢献等をどのように考えるか。
- 臨床研修や専門研修については、大学附属病院本院以外の病院でも多数が行われるようになってきている状況等を踏まえ、大学附属病院本院が自ら行う、または、直接・間接的に他の病院に貢献している教育上の影響等をどのように考えるか。
- 専門研修後の高度な臨床教育等について、実態等はどのようにになっているか。大学附属病院本院が果たしている/果たすべき役割をどのように考えるか。

### (その他)

- 医師派遣機能について、医師の確保・育成能力が基盤として必要となることや医師多数/少数県等の前提条件によるばらつき等の様々な観点を踏まえ、どのように考えるか。

# 地域性等との関連等についての分析例

# 提供する医療の実績を上回る病院が同一都道府県内に存在する大学附属病院本院の例

- 各都道府県における疾患別の提供実績を総合した（※）際に、同一都道府県内に大学附属病院本院と同等または上回る「大学附属病院本院以外の病院」が存在する大学附属病院本院は、27存在した。
- うち、1つの県に1つのみの大学附属病院本院が存在するものは6存在した。

## ※評価方法

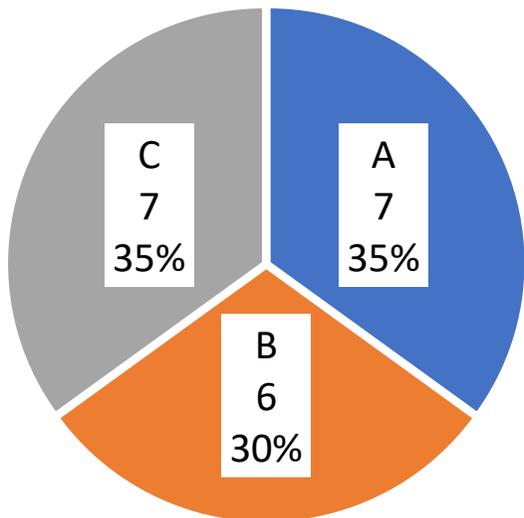
- 令和4年度DPCコードを用い、コード6桁（疾患）別に「手術（輸血を除く）あり」の退院患者数を集計
- 各都道府県内において、コード6桁（疾患）別年間の退院患者数が上位30%の医療機関をA評価（3ポイント）、中位40%の医療機関をB評価（2ポイント）、下位30%の医療機関をC評価（1ポイント）として、各医療機関、各疾患ごとに、合計した総ポイント数を、各都道府県内で比較。
- 同一都道府県内に、大学附属病院本院と同順位または上回る「大学附属病院本院以外」の病院が存在した場合、当該病院以下の大学附属病院本院をカウント

# 大学病院本院同士で比較した際に論文発表等の実績が下位となっている大学附属病院本院の状況

- 特定機能病院かつ大学病院本院である医療機関について、令和4年度の論文発表等の実績（Original article、Case report、Review、Letter、Othersの合計件数）が下位20位の医療機関について、同一都道府県内に、いくつの大学附属病院本院があるか（1, 2, 3以上）によって分類。

当該医療機関と同一都道府県に所在する  
特定機能病院の数

- 1施設(n=7/32) : グループA ■
- 2施設(n=6/14) : グループB ■
- 3施設以上(n=7/33) : グループC ■



(下からの)順位	グループ
1	A
2	B
3	A
4	C
5	A
6	B
7	B
8	A
9	A
9	C

(下からの)順位	グループ
11	B
12	C
13	A
14	B
14	A
16	C
17	B
18	C
19	C
19	C

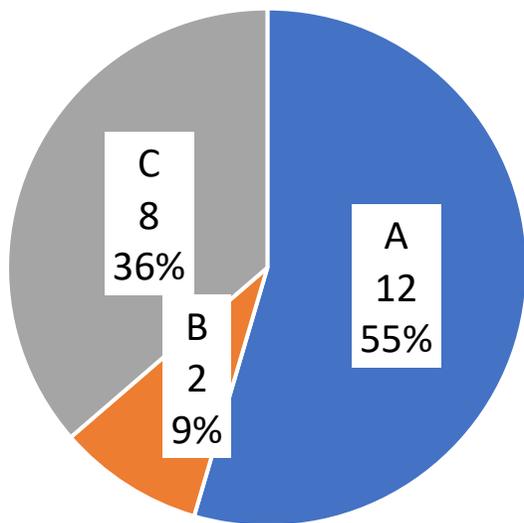
※ 令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「特定機能病院の評価指標の開発に資する研究」（研究代表者：楠岡 英雄）に基づき作成

# 大学病院本院の専門研修プログラム（外科）採用数の実績

- 大学病院本院である医療機関について、令和4年度の専門研修プログラム（外科）採用数の実績が下位20位の医療機関は以下のとおりである。
- 専門研修プログラム（外科）採用数の実績について、一県一医大の大学附属病院本院において、少ない傾向にあるが、グループC（1つの都道府県に大学附属病院本院が3つ以上）においても該当する病院がある。

当該医療機関と同一都道府県に所在する  
特定機能病院の数

- 1施設(n=12/32) : グループA ■
- 2施設(n=2/14) : グループB ■
- 3施設以上(n=8/35) : グループC ■



(下からの)順位	グループ
1	B
1	C
1	C
1	C
1	A
1	A
7	A
7	A
7	C
7	C
7	A

(下からの)順位	グループ
12	A
12	C
12	C
12	A
12	A
12	B
12	A
19	A
19	C
19	A
19	A